

## 【野の仏さんおっしゃった】

2023.5.29(月) NO20

### 交野奥駆けの道(後編)

＝獅子窟寺⇨傍示の里(竜王山)⇨旗振山⇨交野山  
⇨源氏滝

#### 境内の歴史散策

寺伝によると奈良時代、聖武天皇(45代)の勅願によって僧行基が堂塔を建てたという。

宗派は真言宗高野山派に属し本尊は薬師如来坐像である。

この尊像は行基菩薩が一刀礼拝のもとに三年三ヶ月を費やして刻まれた像で、優美な曲線を描く秀でた眉・切れ目・唇(紅)に漂う特徴と衣文の鋭い翻波様式は平安時代の代表作である。



また、弘法大師が獅子窟で秘法をとらえられた時大空から七曜の星が妙見山・星の森・光林寺の三ヶ所に分かれて降った。

鎌倉時代には亀山院が病氣平癒祈願をされており、最盛期を迎えたが、大坂の陣で全山焼亡の難

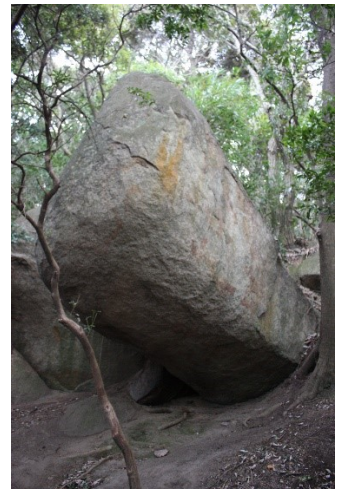
にあっている。



天福岩



アピラウンケン碑



獅子窟岩(男女)



弘法大師秘法跡

山頂境内からの眺めはすばらしく、眼下には天野川、枚方丘陵から、OBP遠く大阪湾や明石大橋まで望むことができます。

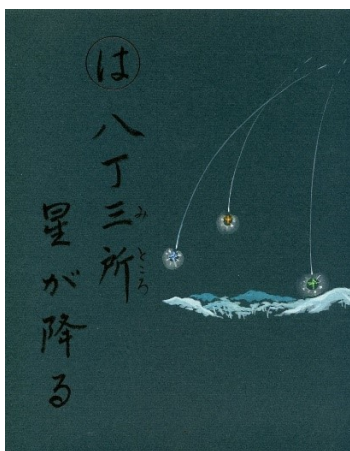
益軒は紀行の「最佳観也」の四文字でうかがうことができる。

また、「凡て此山、大石奇岩多く、又糸桜多し。今日幸いにして花盛也」の記述もみられる。

=夕食後、日没を待ち、星降臨地の確認=



弘法大師が秘法を唱えていて見たものとは



郷土史かるた



日没を待つ



旧地名図

妙見山・星の森・光林寺の各所に工事用のサーチライトを用意し一斉に点灯する。  
一町は約 109mということは、約=800m間隔に星が降ったということです。

=2日目早朝より最終地に向かって=

**懺悔! 懺悔! 六根清浄!**

この六根清浄がドッコイシヨとなり、ドッコイとなったという俗説もありますが、参加の行者さんはみな若い、元気だ!



亀山さんの石段(108 段)



仁王門跡



王の墓

=森古墳群から傍示の里へ=



⑥ 竜王山(▲318m)

「峽崖道」を行くと、「従是嬰兒山竜王社三丁」と刻まれている。竜王山のことを嬰兒山というのは、ここからきている。付近には乳母谷・瀬谷・地獄谷など

暗い地名が多い。上りついた所がお祭り広場である。

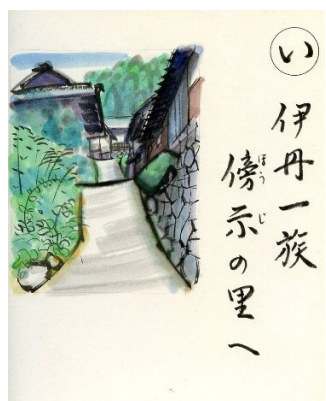
その北、一段高くなったところに「竜王石」があり、その北側のトンガリ岩が「雨乞い岩」である。

ことのおこりは淳和天皇の天長二年(825)干ばつで稲が枯れた。村人の苦しみが天上に達して、弘法大師に雨の降るのを祈らせたのが竜王石である。そびえる。

「寺社縁起」にある北峯の宿、金剛寺の場所である。



竜王岩



郷土史かるた



快慶作阿弥陀如来立像



雨乞い岩



修行窟



かいがけの道



本地仏は不動明王



「従是嬰兒山竜王社三丁」登り口

### ⑦交野山(▲344m)

市民に一番親しまれている山。その頂上に観音岩が そびえる。その悠久の姿、太陽の上る山として信仰を集めていた。正面に大梵字「聖観音(サ)」を彫り込んである。また、観音岩の北側に「大日如来(ア)」南側「三宝荒神(ウン)」を現す梵字がある。



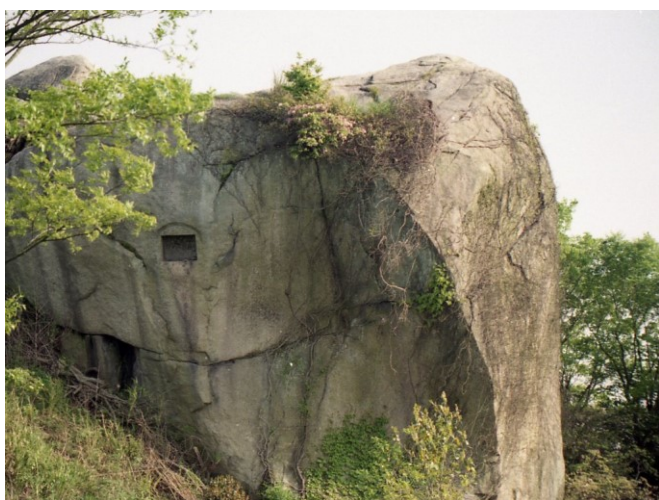
悠久の姿 山頂の観音岩



大日如来(ア)



三宝荒神(ウン)



北側からの観音岩口の切り込みから銅板が

河州交野山開元寺中興開基  
奉令建立所者  
三寶神宮同祥殿同島居同額  
同大石奉彫赤神之梵字石札同石燈籠  
同觀音石ニ正觀音大梵字同奉納法華經六十六部  
同大石ニ阿字之梵字  
同瀧之鎮守八大龍王  
同瀧之脇ニ奉彫不動梵字  
同瀧之不動明王御長座光共ニ八尺之本尊  
同不動堂、堂島居同山内安養寺毘沙門堂  
同毘沙門天王御長五尺三寸之本尊  
同地藏菩薩諸佛之印判ヲ以テ奉自張  
御長ニ尺五寸也、  
同焰魔大王同山内清正寺之如意輪觀音  
右奉造立者也、為一天泰並四海無事十方禮那、世安衆親眷屬法界萬靈  
自他平等普皆利益也

寛文十年三月廿八日大阿闍梨法印實傳  
庚戌  
京都猪熊神別當

銅板の記銘内容

### ⑧源氏の滝

滝は高さ17.5m、市内では最大の滝である。「源氏滝の清涼」として交野八景の一つになっている北峯の宿で修行をして、この滝で身を清めた大切な場所である。滝に面した左側の岩に不動明王の梵字は、山頂の梵字などと同時代に彫られたものである。



梵字「不動明王」(カーン)

このように山には、巨岩あり、洞窟あり、急坂あり、滝ありで理想的な行場となることがわかります。そこで「交野奥掛けの道」を作ってみました。歩くことで身心を鍛える一助になればと、まだ実施実現には至っておりません。AI(人工知能)・チャットGPT・空飛ぶ自動車などはちょっと待って、足ることを知り、感謝の気持ちを忘れず、健康な心で日々を暮らしたらと「野の仏さま」はおっしゃっています。 =了=